

令和3年度東京農業大学 外国人・帰国子女入学試験問題

科目	英語	学科	受験番号	氏名
----	----	----	------	----

I Read the following passage and choose the best answer.

After the invention of agriculture itself, irrigation* was man's next major effort to intervene in the natural functioning of the earth's ecosystem, altering it to greatly expand the earth's capacity to produce. Agricultural man discovered early that he could augment limited rainfall by diverting water to the land from rivers and streams. Man was practicing a distinctly irrigated agriculture at least as early as 6,000 years ago in contrast with the predominantly rain-fed agriculture of the wooded uplands.

Irrigation is simply an intervention by man in the sun-powered natural cycling of water. In the earth's hydrologic* cycle, water evaporates mainly from the oceans and other bodies of water but also from land surfaces and terrestrial plants and animals. This moisture enters and moves through the atmosphere, where it accumulates and forms clouds. Even during the driest period in any part of the earth, large masses of moisture are () in the atmosphere, drifting overhead. Eventually, condensation* and precipitation* occur. Water that falls on land and is not returned to the atmosphere or absorbed by plant buildup moves on to the ocean via rivers, streams, and underground pathways.

To irrigate his crops, early agricultural man obstructed the flow of water that was returning to the ocean in streams and rivers, diverting water into his fields instead. In time, he learned to pull water up from wells using water-lifting devices powered by men, animals, and wind. But, in total, groundwater has been scarcely touched by man.

Notes : irrigation the action of supplying land with water by means of channels or streams

hydrologic the branch of science that deals with the water on and under the earth's surface and in the atmosphere

condensation the conversion of a substance from a state of vapor to a liquid

precipitation water that falls to or condenses on the ground, as rain, snow, dew, etc.

1 Which of the following is closest in meaning to the underlined word altering? 1
① cleansing ② buying ③ changing ④ narrowing

2 Which of the following is correct about the passage? 2
① When a man is interfering in the functioning of the earth's ecosystem, there were no other ways than irrigation.
② Human beings made use of irrigation when they were practicing agricultural activities at least as early as 6,000 years ago.
③ Irrigation has no connection with the sun-powered natural cycling of water.
④ Water that is not returned to the atmosphere can't move on to the ocean at all.

3 Which of the following is the most suitable word for ()?

3

- ① obedient ② irrigated ③ absent ④ present

4 Which of the following is closest in meaning to the underlined sentence: In time, he learned to pull water up from wells using water-lifting devices powered by men, animals, and wind? 4

4

- ① In the olden times, he learned to get water very well using the devices.
- ② He got to pull water up underground by using men, animals and wind.
- ③ Within a limited time, he tried to be pulled by men, animals, and wind.
- ④ Water-lifting devices were invented by him, but still he used water very efficiently.

5 Which of the following is the most appropriate title for the passage?

5	
---	--

- ① Water Recycling
- ② Irrigation and Man
- ③ Great Climate Change and Sustainable Agriculture
- ④ Ancient Man and Water Supply

II Identify the underlined expression that must be changed in order to make the sentence grammatical.

1 Nothing gives me more please than a glass of wine while dinner.

1

- ①
②
③
④

2 Good non-fiction writing will sometimes future slang, but this will usually be for comic or

2	
---	--

- ① ② ③
- satirical purposes.
- ④

3 The problem is now made light, but it is still all the more serious because it is overlooked.

3	
---	--

- ① ② ③ ④

4 Having been accustomed to Western ways, at first she was taken aback by such questions as

4	
---	--

- ① _____
- ② _____
- ③ _____
- ④ “Are you marry?”

5 Almost every evenings Tom suddenly feels fingers touching him lightly on the back of his arms.

5

- ① ② ③ ④

6 Support for a political party becomes equivalent from that for a favorite soccer team.

6

- ①
②
③
④

7 During lockdown in London, I was re-reading Mark Twain's *Adventures of Huckleberry Finn*,
 ①
the story of a white boy and a runaway slave finding freedom on a raft heading down Mississippi.
 ② ③ ④

7

8 Now let us consider how task we might have at the moment to absorb large quantities of labor.
 ① ② ③ ④

8

9 Throughout his life, the poet preoccupied with the question of how humanity could
 ① ② ③
come to terms with the harshness of reality.
 ④

9

10 A : Let me talk your boss and explain it to him.
 ① ②

B : Don't bother. It's not that important to our company.
 ③ ④

10

III Choose the word or phrase that best keeps the original meaning of the sentence if it is used in place of the underlined expression.

1 The soldiers have maintained their reputations and discipline.
 ① lost ② advertised ③ sustained ④ declared

1

2 We need further measures to achieve proper compliance with agreed safety standards.
 ① agreement ② commitment ③ bewilderment ④ measurement

2

3 True or false, it does not concern me.
 ① hurt ② conclude ③ take delight in ④ have to do with

3

4 They stayed beyond the time limit.
 ① before ② just ③ on the nose ④ later than

4

5 Am I in the way?
 ① cooperating with you ② obstructing you ③ out of sight ④ within the landscape

5

令和3年度・東京農業大学外国人・帰国子女試験問題

第1問 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

かつて、群馬県上野村の私の家に、夜になると遊びにくる一匹の野ネズミがいた。自分で開けた壁の穴から暗くなると入ってくる。いろいろな遊びを^{こうあん}考案しながら過ごし、朝になると山に帰る生活をしていた。柱をよじのぼり、私の肩に跳び蹴りをしたことがある。私の^{たばこ}煙草を持って行って、吸い方を考えていたこともある。残念ながら火をつけることがわからなかったので、目的は達せなかったのだけど。

何かをたくらんでいるときの表情は面白かった。部屋の隅で、思案しているのである。それを「知性」と呼ぶなら、私は、すべての生き物たちの「知性」のレベルは変わらないと思っている。自分に必要なことはすべて知っているし、新しいたくらみも考案する。人間との違いがあるとすれば、お金がほしいとか、持ち物や財産をふやしたいといった、自然界からはみだした①過ジョウな欲望を持っていないことと、彼らの「知性」は「知性」だけで独立してなくて、身体の動きと一体になっていることだけだ。

ア近代的思想は、人間が持っている「知性」を絶対視した。たとえば、近代哲学の父とも呼ばれたデカルトが、『われ思う、ゆえにわれあり。』と述べたとき、それは、考えている私は確かに存在するという意味であり、私の本質は考えている私に、つまり私の本質は知性にあるということであった。そして、この知性こそが真理を発見していく力だと考えられた。デカルトは自然科学の②信ボウ者でもあったけれど、科学がこの世界の真理を発見し、それらの学問をつくりだしていく力が知性であるという、知性に対する③ゼン幅の信頼がデカルトにはあった。

とすると、ここで述べられている知性は、やはり人間だけの所有物だ。I、上野村の私の家を訪れた野ネズミは、いろいろなことを考え、たくらみを張りめぐらしてはいたけれど、自然科学を深めて真理を発見しようなどとは思っていない。自分の生きる世界こそが真理の世界なのであり、真理は発見する対象ではない。

ところで、イこのデカルト的な思考は、仕事のとらえ方にも影響を与えるようになる。近代的な生産がはじまると人間たちの仕事は、生産システムをつくる仕事と、そのシステムのもとで働く仕事に分かれる傾向を示した。自然科学が発見したものは、生産の場所では生産技術になり、この生産技術を創造する人々と、その技術に従って作業をする人々とに分かれていく。経営システムをつくる人と、その経営システムのもとで働く人。そんな分化が進行した。

近代以前の労働はそういうものではなかった。職人は設計者でもあり、作業をする人でもあった。商人は、自分の商いのあり方を自分で決めながら、日々の仕事をしていた。仕事のすべての部分が、労働のなかに包みこまれていたのである。

ところが、近代的な生産では、仕事の分化がはじまる。そしてこの動きと、人間の知性を絶対視する思想が結びついた。人間の労働が、知性を働かせた「知的労働」と「肉体労働」とに分けてとらえられるようになったのである。「知的労働」が人間的な労働であり、「肉体労働」は肉体の④ショウ耗にすぎないという考えが、こうして定着していく。

私はこのような考え方が、人間の労働を^や痩せ細らせていったのではないかと考えている。考えることと身体を動かすこととは、一つの労働の二つの側面にすぎなかったのに、この二つの側面が切り離されてしまった。たとえば、つくりながら考え、考えながらつくる労働が、考える人とつくる人とに分かれてしまったのである。

それは、第一に「肉体労働」をつまらないものにしてしまった。決められた生産システムのもとで同じ作業を繰り返すだけなら、この仕事が面白いはずはない。とともに、「知的労働」も創造性のないものに変えてしまった。もしも「知的労働」が創造的なものであるとするなら、それは仕事の全過程にかかわりながら、考え、工夫をし、研究や開発をするときに生まれてくる。実際、仕事の全過程にかかわることができなくなったとき、「知的労働」は次第に、IIに従って仕事をする方向に向かった。

近代以降、経済は⑤ヒ躍的に拡大したが、人間の仕事そのものはこうして痩せ細っていった。

(内山節 「戦争という仕事」より)

問1 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に直したのとして正しいものを、次の1～5のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | |
|----------------|-------------------------------------|
| ① <u>過</u> ジョウ | (1 情 2 上 3 乗 4 剩 5 場) |
| ② <u>信</u> ボウ | (1 法 2 報 3 峰 4 奉 5 宝) |
| ③ <u>ゼン</u> 幅 | (1 全 2 前 3 膳 4 禪 5 善) |
| ④ <u>ショウ</u> 耗 | (1 消 2 生 3 章 4 賞 5 象) |
| ⑤ <u>ヒ</u> 躍 | (1 日 2 碑 3 飛 4 比 5 秘) |

問2 本文を大きく二段落に分けると、二段落目はどこから始まるか、その最初の四文字を抜き出して答えなさい。

問3 空欄 I ・ II に入る最も適当な語句を、次の各群の1～5のうちからそれぞれ選びなさい。

I (1 むしろ 2 また 3 しかし 4 なぜなら 5 つまり)

II (1 タブー 2 メディア 3 マネー 4 イメージ 5 マニュアル)

問4 傍線部ア「近代的思想は、人間が持っている「知性」を絶対視した」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

- 1 近代的な文明社会を発展させたのは科学であり、科学が自然を征服する時に、人間だけが持っている知性が役に立ったということ。
- 2 人間の本質は知性であり、知性こそが真理を見つける力であり、世界の真理を解明する科学を創り出す力でもあったということ。
- 3 人間と他の動物との違いを、知性のあるなしに見いだした近代の思想が、神にかわる絶対的なものとして人間を考えたということ。
- 4 デカルトの近代的思想が、考えている私は確かに存在すると、確かな存在として人間の知性と存在とを唯一のものと考えたこと。
- 5 近代的思想が、真理を探究する上で、人間だけが持っている知性を絶対的なものと考え、他の動物との差異を知性に見いだしたこと。

問5 二重傍線部「デカルト」の作品を、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

- 1 罪と罰 2 オセロ 3 方法序説 4 戦争と平和 5 資本論

問6 傍線部イ「このデカルト的思考は、仕事のとらえ方にも影響を与えるようになる」とあるが、どのような影響を与えたのか。その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

- 1 人間の知性を重視する思想と結びつき、近代的な生産システムを生み出し、仕事に、知力を発揮し、経営システムを作る資本家という存在をもたらした。
- 2 人間の知性を絶対視する思想と結びつき、近代的な生産システムだけが、人間の仕事であるという考えが広まり、仕事の専門性を高めた。
- 3 自然科学こそが未来を切り開くという思想が広まり、近代的な生産システムの中に科学技術を大きく取り入れることで、自然を征服、改良しようとする仕事が目立つようになった。
- 4 自然科学により真理を極めようという思考が、近代的な生産システムを作り出したが、知性を働かせる仕事は一部の専門家に任せ、自然に向かう肉体労働が仕事の中心になるようになった。
- 5 自然科学を深め真理を発見し、近代的な生産システムを生み出すと、人間の労働に知的労働と肉体労働というように仕事の分化をもたらした、考えることと身体を動かすことを切り離すようになった。

問7 本文の構成上の特色と内容を述べたものとして最も適当なものを、次の1～5のうちより一つ選びなさい。

- 1 本文は、構成上の特色として対比によって文章が展開され、近代以降の労働が知的労働と肉体労働に分化したことにより、人間の仕事から豊かさが失われたと指摘している。
- 2 本文は、構成上の特色として最初に主題を設定し、具体例を挙げ予想される反論を示し、その上で再反論を行うように段落相互が接続するように構成され、人間にある知性が自然科学を発展させたことを指摘している。
- 3 本文は、構成上の特色として、具体的な身近な内容から抽象的な内容へと展開し、感性がいかに近代以降労働に大きく関係してきていたかが分かるように指摘されている。
- 4 本文は、構成上の特色としてそれぞれの段落に^〇比喩が用いられ、巧みな比喩の力によって抽象的な内容を分かりやすくして、知的労働と肉体労働との違いを指摘している。
- 5 本文は、構成上の特色として近代社会における労働の問題を最初に提起し、そのあと具体例を^く駆使して展開し、人間の仕事が近代において^く痩せ細ってしまったという筆者の主張を説いている。

第2問 次の各問いに答えなさい。

問1 文意が通じるように、1から4の文の（ ）に最も適当な助詞をそれぞれ一文字入れて答えなさい。

- 1 マンゴーの実（ ）熟してきた。
- 2 庭の隅（ ）木を植えた。
- 3 父（ ）駅に迎えに行く。
- 4 万年筆（ ）手紙を書く。

問2 （ ）の意味の慣用句になるように、アからエの□に最も合う言葉を、それぞれ後ろの1～5のうちから一つずつ選びなさい。

- ア 腰を □ (落ち着いて物事を行うこと。)
- イ 琴線に □ (心に深く感じ入ること。)
- ウ くぎを □ (間違いがないように念を押すこと。)
- エ 身の毛も □ (ぞっとすること。)

- 1 よだつ
- 2 かける
- 3 すえる
- 4 ふれる
- 5 さす

問3 次の会話文を読んで、後の1～5の文から会話文の内容として正しいものを一つ選びなさい。

- 田中 : 先輩、就活はどうですか？
- 森 : ああ、就職活動？一つ落ちて、一つ受かったところだよ。
- 田中 : わあ、おめでとうございます。それ採用通知ですか。
- 森 : まだだよ。一次が通っただけで、これから二次の面接があるのだから。あれ、この日、大学の補講があるのだった。どうしよう。
- 田中 : 先生にお願いして休ませてもらうとか、会社に別の日にしてもらうとか？
- 森 : こういう場合、どっちに先に聞いたらいいんだろう？学生課で相談してみる。

- 1 田中さんは、森さんより歳は上である。
- 2 森さんは就職が決まった。
- 3 森さんにとって二次試験の日は都合が悪い。
- 4 森さんは補講を休んで面接を受ける。
- 5 森さんは面接の日を別の日にしてもらう。

第3問 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

I

分かるということは変わるということだ。ある出来事にふれ、真に分かったとき人は、どこかで変^{へんぼう}貌しているのである。これは①ソボクな理法だが、ときに激しく迫ってくる。変わっていないのであれば、じつは分かっていることが②ロテイしてしまう。哲学者の池田晶子(1960～2007)は、分かることと変わることにふれ、次のように書いている。

この本に書いてあることを自分で考えて、自分の知識として確実に知ったのなら、君の生き方考え方は、必ず変わる。変わるはずなんだ。本当に知る、「わかる」とは、つまり、そういうことなんだ。

(『14歳からの哲学』)

書名にあるように池田は、14歳の若者にむかってこう呼びかけている。

「この本に書いてあること」と彼女がいうのは自分の発言を指しているのではない。彼女は「自分の言葉」、「自分の考え」というものをまったく信用していなかった。彼女がもっとも敬愛していた哲学者はプラトン(前428／前427～前348／前347)である。哲学の祖といっ

てよいこの人物にとって、知るとは、すべて想い出すことだった。

新しく知ることではない、とプラトンはいふ。人間が知らなくてはならないことはすべてその魂に宿っている、より正確にいえば、魂を扉にした「イデア」界と呼ぶべき世界にすでに存在していると考ええる。プラトンはそうした働きを「想起」と呼んだ。

ア彼にとって哲学とは、不斷に想起する営みだった。したがって、池田がいう「この本に書いてあること」とは、それを読む者の心にもともと宿っていること、と置き換えてよい。内なる叡知の存在に気がつきさえすれば、人は必ず変わる、と池田はいうのである。

別なところで彼女は、「わかる」という表現にふれ、「分かる」と漢字で書くようにそれは、自ら内から叡知が分かれ出る経験を指すのだ、と語ったことがある。また、何かを本当に理解したとき、人はほとんど無意識に「分かった」と思わず過去形で口にする。こうした行為にも、知るべきことはすでに私たちの内に存在していることが示されているといった。

そう考えると、出会うべき言葉は誰もが、すでに自分の手に握り締めているということになる。生きるとは、自分の中にすでにあって、見失っている言葉と出会うための道程だとも言えるのかもしれない。だが、その言葉は、必ずしも言語の姿をしているとは限らない。

③キミヨウに聞こえるかもしれないが本当だ。言語は、無尽にある言葉の一形態に過ぎない。

このことは、言葉という表現を意味の塊と置き換えるとよくわかる。私たちは日常生活のさまざまなところで意味を感じている。言語以外の呼びかけにも意味を感じることは少なくない。

朝、日が昇るのを見て美しいと思う。それにとどまらず、ある充実を感じる。あるいは深い④イケイの念に包まれる人もいるかもしれない。雨のなかにたたずむとき、静かな大地のうごめきを感じる者もいるだろう。鳥のさえずり、川の流れ、私たちは万物の動きに意味を感じることができる。逆の言い方をすれば、世界は人間に読み解かれるのを待っているようにさまざまな意味を語っている。

世界がけっして止まることなく、意味を語り続ける様子を、美しく、また、まざまざと記した一文が日本にはある。『古今和歌集』の序文「仮名序」がそれだ。作者である Ⅱ (866～945?) はこう書いている。

やまとうたは、人の心を種として、万の言の葉とぞなれりける。世の中にある人、ことわざ繁きものなれば、心に思ふことを、見るもの聞くものにつけて、言ひ出せるなり。花に鳴く鶯、水に住む蛙の声を聞けば、生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける。力をも入れずして天地を動かし、目に見えぬ鬼神をもあはれと思はせ、男女の中をも和らげ、猛き武士の心をも慰むるは歌なり。

(若松英輔 「生きる哲学」より)

問1 傍線部①～④のカタカナと同じ漢字を用いるものを、次のそれぞれの群の1～5のうちから一つずつ選びなさい。

- | | |
|----------------|---|
| ① <u>ソ</u> ボク | (1 彼の行く手を <u>ソ</u> シする。
2 <u>ソ</u> フは今年で80歳になる。
3 ものを <u>ソ</u> マツにしてはいけない。
4 会社では <u>ソ</u> シキの在り方が大切である。
5 漢文では <u>ソ</u> ドクが大切である。) |
| ② <u>ロ</u> テイ | (1 学校では <u>テ</u> イキ試験が始まった。
2 反対派の <u>テ</u> イコウがものすごかった。
3 旅行のニッ <u>テ</u> イを変える。
4 記念品を <u>ソ</u> ウ <u>テ</u> イする。
5 彼は来年 <u>テ</u> イネン退職である。) |
| ③ <u>キ</u> ミヨウ | (1 彼は毎朝新聞 <u>キ</u> ジに目を通す。
2 <u>キ</u> カク書を上司に提出する。
3 父が <u>キ</u> トクであるという知らせを受ける
4 彼の考えは <u>キ</u> バツであった。
5 運動会での <u>キ</u> バ戦が中止になった。) |
| ④ <u>イ</u> ケイ | (1 息子は父親を <u>ソ</u> ン <u>ケ</u> イしている。
2 彼のけがは <u>ケ</u> イショウで済んだ。
3 彼は <u>ケ</u> イザイ学部の出である。
4 彼女とのカン <u>ケ</u> イは破綻した。
5 彼の詩が雑誌に <u>ケ</u> イサイされた。) |

問2 空欄 I にはこの文章の見出しがはいる。次の1～5のうちから最も適当な見出しを一つ選びなさい。

- 1 哲学は自然を考える。
- 2 やまとうたはいつも美しいことばであった。
- 3 出会うべき言葉はわたしたちの内にある。
- 4 分かるとは、自分の知識を確実にすることである。
- 5 人は無意識の世界を持って生きている。

問3 傍線部ア「彼にとって哲学とは、不断に想起する営みだった」とあるが、どういうことか、その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

- 1 プラトンにとって、哲学とは、日常生活の様々な所で言葉や事物の意味を感じ取っているように、意味を感じる行為そのものであるということ。
- 2 プラトンにとって、哲学とは、何かを本当に分かるという試みであり、それは人間の無意識の世界に目を向けることであるということ。
- 3 プラトンにとって、哲学とは、言葉と出会う事ではなく、言葉を使う人間に出会う道程そのものであるということ。
- 4 プラトンにとっては、哲学とは、すべて想起することであり、内なる魂の中に宿っている叡知の存在に気が付くことであるということ。
- 5 プラトンにとって、哲学とは、思い出した事柄をさらにより深く知ることであり、それは美に限らずにあらゆる事柄に及ぶものであるということ。

問4 空欄 II に入れるふさわしい人物を次の1～5のうちから一人選びなさい。

- 1 清少納言 2 大伴旅人 3 紀貫之 4 紫式部 5 藤原定家

問5 二重傍線「若者」と「哲学」という語句を使って30字以内で短文を作りなさい。(24字以上書いてあり、文として完結していること。句読点も字数にはいる。)

令和3年度 東京農業大学 外国人・帰国子女試験問題解答欄

科 目	学 科	受 験 番 号	氏 名
日 本 語	学科	番	

第1問

問1	①		②		③		④		⑤			
問2												
問3	I			II								
問4				問5			問6			問7		

第2問

問1	1		2		3		4	
問2	ア		イ		ウ		エ	
問3								

第3問

問1	①		②		③		④	
問2			問3			問4		
問5								